

秋田県農業機械商業協同組合(白石光弘理事長)は、昭和39年12月設立されました。設立から今日まで、組合員の相互扶助と親和を基本精神として、経営安定化と社会的基盤の確立及び流通秩序の維持を目的とした事業を重点的に推進してきました。

この間、初期の段階では、経営安定化のため経済事業に傾注し、金融事業として転貸融資と農家手形融資制度を実施し、通年の運転資金需要に応えました。同時に社会的要求もあって、高騰化する農業機械の分割払い制度を導入し、全国に先駆けて地元金融機関と提携し農機ローン制度を創設、組合員の運転資金の安定化に大いに貢献し、現在に至っています。また、購買事業では農業機械の修理用部品の取扱いが増加しており、より積極的な事業活動を推進することとしています。このほか、当組合は、県認定設備施設の申請、技能士の育成、中古農機市場の適正化など整備体制の確立や業界情報の発信、経営相談を実施し、業界の中核としての役割を担ってきました。

昨今の農業経営の課題である就農者の高齢化・人手不足・大規模化・農地の効率化を見据えて、令和元年度秋田県農政では、県内の農林水産業の持続的発展を目指し、競争力の高い経営体の育成と複合生産構造への転換に向け

た取組みをより一層強化するとともにICT・AI等の先端技術を活用したスマート農業など次世代型農林水産業の推進を図りながら労働生産性の向上を目指することとしています。組合では、こうした農業機械を取り巻く環境の変

化に的確に対応するために組織体制の強化と組織活動の充実を図り、行政ならびに関連団体との連携強化に努め、国や県が講ずる施策に適切に対応できるよう情報の収集と提供に努めたいとしています。

10月30日(水)からは大館市で、先人に学び農業の未来をひらく農業の祭典「第142回種苗交換会」が開催されますが、協賛行事の農業機械化ショーは当組合に事務局を置く秋田県農業機械化協会が主催します。県内地域農家の皆様に適したハード面・ソフト面でのご提案をお披露目する予定です。



[昨年の農業機械化ショー]

白石理事長は、食の安全確保と自給率向上を「国の命題」と捉え、「若い世代が、農業をあきらめてしまう農政ではいけません。強い農業を残していきたい、これまでもこれからも、あらゆる角度から農家を支援していきたい」と「農業機械」を通じて、安心して働ける農業の発展に貢献していきたいとしています。また、秋田県農業関連行政にも積極的に協力しており、機械化農業技術の指導、機械化に関する資料の収集と情報提供などを行い、秋田県農業の機械化の推進と農業生産性の向上に果たした役割は大なるものがあり、これまでの功績が認められ、農業振興功勞によって令和元年春の叙勲で旭日双光章を受章しています。



[白石理事長]



[組合のポスター]